

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676600218
法人名	有限会社やわら
事業所名	グループホームやわら(鶴棟・亀棟)
所在地	鹿児島県曾於市末吉町二之方5232-8 (電話) 0986-76-3727
自己評価作成日	令和4年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くには田んぼや畑が広がり、幹線道路から少し奥まった静かで落ち着いた場所に、まるでその自然に溶け込むようにグループホームやわらは建っています。緑の木々を抜けて吹く風は心を落ち着かせ、四季折々の草花は優しい気持ちにしてくれます。この様に自然に囲まれた落ち着いた環境の中で穏やかで安心感のある生活を送っていただけるよう、私たちは入居者様お一人お一人に寄り添った援助を心掛けています。また、毎日のバイタルや摂取・排泄などのチェックによる異常の早期発見の他、定期的な医師の診察や看護師の訪問への付き添いと情報提供など医療との緊密な連携により健康状態の維持・向上に努めています。なお、入居者様ご本人やご家族から「住み慣れたグループホームやわらで最期の時を迎えたい」とのご希望があれば、施設での看取りを援助しています。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、幹線道路沿いにあり病院や学校、コンビニエンスストアなどが近隣にあって利便性の良い場所に位置している。建物の前に広々とした駐車場を配し、ユニットに繋がる屋根付きのアプローチから玄関に入ることができる住環境で、玄関には理念が掲示され民芸品や調度品が置いてあって、リビングが見える構造になっており、天窓から自然の光が差し込んでいる。

介護理念は、法人共通の理念であるが、職員の意識づけを図るため事務室にも掲示されている。開設当初からの理念であるが、職員会議の中で触れ、本人がしたい事やしたくない事を理解した上で本人本位に対応するといったケアを目指している。理念と社訓は職員の日々の実践に繋がっている。

複数の自治会に隣接しているため自治会には加入してはいない。地域行事に参加したり校区公民館の集会には参加し地域の方々と交流し事業所の実情や取り組み状況などを伝えるようにしている。災害時に協力要請する、「地域協力隊」との協力関係や日々の散歩は地域との関わりや絆を深めている。現在は感染対策のため地域交流は控えているが、日常の散歩は天候や利用者の体調などを考慮しながら実施している。

「重度化した場合の対応に係る指針」があり、法人は今年度指針の見直しを検討している。年間を通じて看取りの実績も多く入居時の説明では、利用者、家族のホームでの看取りの希望も多い。事業所は、医療連携体制同意書を取り交わし入居時点での意思確認を文書でおこなっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域に開かれた施設であるべきことが記載された理念を施設内の職員が目届くところに掲げて意識付けを行っている。	開設当初からの理念は法人共通の理念であり、パンフレットに掲載され玄関や事務室に掲示し職員の意識統一を図り、職員会議や申し送り時などに振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の散歩は、地域住民との貴重な交流の機会と捉えて積極的に生活に取り入れている。なお、不測の事態で地域住民に迷惑が掛からないように必ず職員が同行している。	自治会には加入してはいないが、校区民との関わりは大事にしており、散歩時に挨拶を交わしたり畑で採れた野菜の差し入れなどがあり日常的に交流している。地域には、夜勤帯の避難支援を依頼しており、「地域協力隊」と命名して情報交換し協力関係を築いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	施設見学や入居相談の随時受付の他、地域の「認知症カフェ」の運営に参加し、認知症介護に関する地域住民からの相談に懇切丁寧にお答えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は他事業所と合同で開催し多様な意見やアイデアを頂いている。介護度や年齢などの入居者状況の報告の他、行事や研修、日々の取り組みなどについて意見を頂いている。	会議開催前に家族や行政、地域、など会議メンバーに事業所の取り組み状況やケアの状況などを情報提供し、意見を聞いている。会議は、同法人との合同開催にて実施、出された意見などはサービス改善や質の向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営基準上の疑問点はもちろんのこと、入居者や家族への援助についても担当者に相談している。行政からの問い合わせや依頼に対しては積極的に協力している。	電話での相談や情報交換があり、手続き関係などは直接面談にて実施している。介護系の職員との連携もあり、市担当者からはSNSを活用した研修案内があり、職員は業務シフトを調整し積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	経営者、管理者、職員代表が定期的に「身体拘束・虐待廃止委員会」で現状の確認をするとともに、全ての職員がその必要性について理解を深めるよう月例の施設内研修を計画・実施している。	身体拘束等適正化を図るための指針を整備しており法人共有の指針である。3ヶ月毎の会議、年2回の勉強会にて知識や技術を研鑽しスキルアップを図っている。不適切な言動に対しては、その場で注意したり申し送りにて周知徹底している。また、職員会議などで意見交換し業務改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	経営者、管理者、職員代表が定期的に「身体拘束・虐待廃止委員会」で現状の確認をするとともに、全ての職員がその必要性について理解を深めるよう月例の施設内研修を計画・実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	程度の差はあるものの全入居者が認知症であり権利擁護の各種制度の活用の必要性についてカンファレンスなどで検討する場面がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時の説明は、必ず書面を用いてハッキリと分かりやすい言葉で懇切丁寧に行うように心がけている。特に利用料金については、料金表を基に出来る限り細かく説明するように心がけている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事務所前の目に付きやすい場所に「ご意見箱」を設置し書面で意見等を受け付けている。その他、入居者は日常生活の中で、家族には面会時などに積極的に声掛けを行い、意見を伺うように心がけている。</p>	<p>利用者との対話を重視し、リラックスしているに意見や希望を聞くよう努めている。家族とは忌憚なく話ができる関係性を築くよう努めており、電話や面談にて意見や要望などを聞くようにしている。毎月の広報誌、「やわら新聞」には、個人の生活ぶりをコメントして伝えるなど情報発信している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月例の職員会議やカンファレンスで管理者と職員との意見交換を行い、職員の意見が運営に反映されるように努めている。</p>	<p>職員は、30代から80歳代と幅広い年齢層である。主に調理を担当してもらって80歳代職員などの経験やスキルを考えたシフト調整、職員の希望や事業所の経営方針を踏まえ職場環境や条件を整備している。管理者や職員は、定例の職員会議で意見交換を行い、出された意見をサービス向上や運営に活かしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、職員の能力や業務への取り組み状況等の把握に努めるとともに、定期昇給の他、資格取得や研修修了に応じて手当の支給や基本給に上乘せを行う等、職員が常に向上心を持って職場作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、職員の能力の把握に努めるとともに、管理者に年間研修計画を策定させて職員一人ひとりの介護知識や介護技術の向上を図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表者は、地域包括支援センターを中心とした地域ネットワークの重要性を理解し、研修会等へ積極的に職員を参加させている。また、地域全体の質の向上のため事業所間の交流にも積極的に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に可能な限り多くの情報を収集するとともに職員が共有している。その情報を基に入居者や家族の安心感のある生活の実現に努め信頼関係を構築している。入居当初は、特に頻回の声掛けや傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時は、常に傾聴と懇切丁寧な説明を心がけている。困りごとや不安なこと、要望等は援助計画に盛り込むことを説明して安心して施設を利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の他、担当ケアマネや利用していた介護サービス事業所等からも可能な限り多くの情報を収集し、それらを基に本人や家族の現状や要望に合った援助の提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の「できる事」と「できない事」をしっかりと見極め必要な援助を提供するとともに、残存機能や能力を日常生活の中で最大限に活かせる援助を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居により家族等との絆が途切れることがないように援助計画の中で家族等をインフォーマルなサービスとして必ず位置付けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人などが訪問しやすい雰囲気作りに努めている。また来訪での面会が困難な場合は、タブレットを活用した面会を行うための環境を整備している。	家族から面会の希望があった時は、電話を活用してガラス越し面談を実施、タブレットを活用した面談も対応している。花見シーズンでもあり、ドライブがてら車窓から地域を散策、花見見物に出かけるなど馴染みの場所を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格や身体機能に応じて話題の提供や会話の橋渡しを行っている。また入居者同士の人間関係に応じて食事やお茶、レク活動の座席の位置に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や死亡などにより退居された入居者の家族に対しても各種手続きの援助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの生活歴や入居前の暮らしぶりの聞き取りの他、入居後の生活の様子観察や会話の中身などから本人の望む暮らしの把握に努めている。	入居前の生活歴や利用者情報などを参考にしたり、暮らしぶりから申し送りやカンファレンスなどで本人の思いや意向などを把握するよう努めている。本人の思いに触れ、言葉にできない思いについては汲み取り、本人本位に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や入居前の暮らしぶりの他、介護サービスを利用していた場合には本人と家族の同意を得て担当ケアマネや介護サービス事業所からの情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、常に入居者の心身の状態や能力、他入居者との関係性等を観察し、毎日の申し送りや定期的なカンファレンスで情報の集約と共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の他、掛かりつけの医療機関や利用している介護サービス事業所などから可能な限り情報を得てケアプランに反映させるように努めている。また、定期的なモニタリングを行い入居者の状態に合ったプランへの見直しを行っている。	介護計画書は、本人や家族の思いが反映され現状に即した計画書になっており、担当者会議は、敷地内にある東屋で開催している。毎月、モニタリングを実施し職員会議の中でカンファレンスをおこない計画の進捗状況などを話し合い計画の見直しなども柔軟におこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルや摂取・排泄のチェックの他、服薬や口腔ケアなどの実施状況はケア実施表に、気づきや特変はケース記録に記録するとともに申し送りで情報の共有を図っている。ケアプラン見直し時の資料としても活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対面での面会の他、遠方や感染症リスクの高い時期の面会に対応するためにタブレットが使用できる環境を整備するなど、入居者や家族、その時の状況に応じた援助の提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や友人・知人との交流や病院受診などの活動を通じて地域社会との関わりを持ち続けることで、入居した後も地域社会の一員としての生活が送れるような援助を心がけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については、必要な情報提供を行い本人や家族が決定している。医師や訪問看護師と常に連携を図るとともに、必要に応じて通院援助や入・退院援助を提供している。	入居前のかかりつけ医を主治医とする方や協力医療機関に外来診察に行く方もいる。訪問診療や緊急時の受診は職員が対応しているが基本的に他科受診は家族対応である。受診に際しては各ユニットの主任が対応し、隔週の訪問看護師や訪問歯科との連携もあって医療連携が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問時は、日勤職員が必ず入居者に付き添い情報提供や相談を行っている。また訪問看護事業所への連絡を一元化するなど、入居者が必要とする医療サービスを適切に受けられるように体制を整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、情報提供を行うとともに着替えや日用品など必要物品の準備を援助している。また入院中は、回復状況や心身の状態などを随時確認し、退院後の生活に不安や不足が生じることがないように医療との連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期(看取り)については、方針や援助の内容を入居時に必ず書面で説明し同意を得ている。医師から家族への終末期の選告時は必ず同席して、医師の指示と家族の意向を確認して援助に活かしている。	「重度化した場合の対応に係る指針」については、契約時に本人、家族に説明の上、事業所の方針を共有し同意を得ているが、看取りに対する希望が多い。法人共通の指針は、現在見直しを検討している。看取りの研修については年1回実施、年間を通じて看取りの実績が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月例の職員会議で緊急時をテーマにした研修会を開催するとともに職員がいつでも見られる所にマニュアルを置き、急変や事故発生に備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防火管理者が中心となり定期的に避難訓練を実施している。また地域協力隊を組織し、地域住民の協力を得られる体制を構築している。</p>	<p>避難訓練は、年2回自主訓練にて実施、地域協力隊の役割は、利用者の見守りや消防車到着の誘導などで代表者は通報者名簿に記載されている。今後、地震を想定した訓練も計画している。米（もみ）で百俵、精米や3日分の食料や備蓄をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	重要事項説明書にプライバシー保護についての方針を記載し本人や家族に説明し同意を得ている。また「接遇マナー・職業倫理」をテーマにした研修会を開催しプライバシー保護の重要性について学んでいる。	契約時に個人情報を含めプライバシー保護に関する事業所の方針について説明している。管理者や職員は、年1回、「介護におけるコミュニケーション」をテーマにプライバシー保護の必要性などに触れ学習を重ねている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者それぞれの身体機能に応じたコミュニケーション方法を用いることで、可能な限り自己決定ができるように援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば食事やお茶など、その日の入居者の体調や気分に合わせて時間をずらして提供するなどの便宜を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	家族の協力を得ながら、季節に応じた服装ができるように衣服の入れ替えなどの援助を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	喫食状況や摂取量から入居者の嗜好の傾向を把握しメニュー作りに活かしている。また食材の下ごしらえやテーブル拭きなど身体機能に応じた家事活動への参加を援助している。	調理担当者は嗜好や本人の希望などを反映した1ヶ月分の献立を作成し、能力に応じた手伝いがあり食事を楽しむ雰囲気作りができています。おせち料理や七草がゆなどの行事食、誕生日には手作りケーキ、季節を感じさせるおやつ提供、地元の食材を取り入れ調理に役立てるようにしており地域とも繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口腔機能に応じた食形態やトロミの使用、身体機能に応じた自助具の活用など、能力や状態に応じた食事・水分の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者全員の口腔ケアの援助を提供するとともにケア実施表に記録している。義歯は毎晩、義歯洗浄剤を使用して洗浄・除菌している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの機能を見極め、残存機能の活用とできない部分の援助を心がけている。また手摺りの設置など、自立に向けた環境整備にも積極的に取り組んでいる。	職員は、オムツの種類などが変更になった時は、排泄の状況などを説明した上で料金についても同意を得るようにしている。退院後におむつからリハビリパンツへと改善した方や布下着の方もいる。また、終日オムツ使用の方もおられ適切なオムツ交換や清潔支援をおこない気持ちよく過ごしてもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数や量は毎日チェックしケア実施表に記録するとともに、排便間隔に応じ医師から処方された緩下剤の服用による便秘コントロールの援助を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の基本は2日に1回のペースだが、お風呂は毎日準備しているので入居者から希望があれば毎日でも入浴できる。	基本的に週2回入浴支援をおこなっているが、本人の希望や必要に応じて入浴ができるよう取り組んでいる。入浴剤やゆず湯を楽しむことができるよう支援しており、水分補給に努め皮膚疾患や乾燥肌など方の軟膏塗布、足浴などに対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じた寝具を使用してもらっている。また、日中でも心身の状況に応じて居室で横になって休息できるよう援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての入居者の薬情書を職員がいつでも閲覧できる場所に置いて用法や用量、効能、副作用などについて確認しやすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体機能や生活歴、性格、趣味などに着目し、洗濯や調理などの家事活動への参加、また散歩やレク活動などの余暇活動への参加を促し、生き甲斐や楽しみのある生活を援助している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に応じて散歩やできる範囲の草むしりなど、屋外での活動を援助している。感染症リスクが無い場合は、家族の協力を得ながら墓参りなどの一時帰宅も大いに推奨し援助している。	日常は、ホーム前の道路の向かい側に散歩コースがあり地域の方との出会いや気分転換を目的に散歩を楽しんでいる。天候や感染症の状況を把握して、ドライブして車窓からお花見をしたり、地域を散策するなどして外出を実施している。家族との協力関係があり墓参りなどは柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理のできる入居者については、本人持ちの現金での歯磨き粉やティッシュなどの日用品の購入を援助している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や友人・知人からの電話や手紙の取り次ぎを随時援助している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用部分を含め、居住空間全体の整理整頓と清潔保持に努めている。また、民芸品や小物などで季節感があり安心できる生活空間作りに努めている。</p>	<p>玄関を入るとリビングは目の前にあり、天窗もあって採光がある。事務室からもリビングの様子が伺え、畳スペースにソファを配置してくつろいでもらっている。壁には利用者の作品や写真などが掲示されており温かみのある調度品や民芸品があってゆったりと過ごせる生活空間である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用部分に大型テレビとテーブル・ソファを設置し、入居者同士がゆっくりと歓談できる空間を設けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室は全て個室で、自宅で使い慣れた家具の持ち込みや家族写真の掲示も許可しており、プライバシーが守られた居心地のいい安心感のある生活の場となるよう便宜を図っている。	エアコン、ベッド以外は本人が使い慣れたテレビ、タンスや家具などである。家族写真などを持ち込み安心感を得て居心地よく過ごせるよう支援している。職員は、換気や消毒をおこない感染症や安全面に配慮している。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	建物内部は、バリアフリーで手摺りを設置し、伝い歩きでも安心して日常生活に必要な食堂やトイレ、浴室などに行けるように配慮した作りとなっている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない